中学校修学旅行の実態

日修協まとめ

日本修学旅行協会では、中学校修学旅行の実態をまとめ、同協会の「教育旅行年報」に発表している。調査は09年度に行われたもので、新型インフルエンザの流行期と重なって実施時期などに若干の変化がみられるものの、全体として大きな変化はない。以下、要点を紹介する。

同年報では、中学校の修学旅行について全般的な実態は、次の7項目にとりまとめている。

①実施形態

前回の調査では、1校で数コースに分かれて実施した学校が2校あったが、今回の調査では、すべての回答校が全校同じ行き先で実施し、クラス単位での行動と班別自主行動による見学や体験が主となっていた。

②実施時期

例年、国立と公立は4～6月の実施校が多く、私立は10、11月の実施校が多いが、今回の調査では、4～6月の割合が約10ポイント下がり、9月が6・6ポイント上がった。これは1学期の新型インフルエンザ流行によって、実施時期を9月に変更した学校が多かったためとみられる。

③実施状況

旅行日数については、全回答校の77・8％にあたる826校が2泊3日の日程で実施している。3泊4日実施校は215校、4泊5日以上の実施校が19校だった。

前回の調査と同じく1泊2日実施校（千葉県木更津市）が1校あった。最長泊校は、6泊7日での東京都青ヶ島村の学校だったが、東京には直接行けない島しょ地区の特例と考えられる。

④引率教員

教員1人あたりの引率生徒数は、平均で14・0人（前回は13・2人）と増加した。公立の教員1人あたりの引率生徒数は13・7人で、国立の16・6人、私立の17・3人に比べて少ない。

⑤旅行費用

全体の60％が5～7万円の間にある。国立と私立では過半数の学校が7～10万円の間にある。

5万円以下の学校の96％が公立で、全体として公立中学校の費用は私立と比べて低廉だ。（内訳は別表「費用内訳＝生徒1人当たり」参照）」

⑥旅行実施内容

実施内容では、「寺社・史跡・文化財の見学」「博物館・美術館の見学」「伝統的街並みや建造物群保存地区の見学」「伝統工芸やものづくり体験」で全体の50％を超え、見学と体験を組み合わせた旅行が主である傾向が続いている。

旅行先では、近畿地域と関東地域に68・6％の学校が訪れている。10％以上が訪れる旅行先で、近畿・関東地域以外では沖縄地域だけだった。中国・四国地域を旅行先にしている学校は少なく、旅行先に大きな変化は見られない。

宿泊地では、京都府、東京都、沖縄県で全体の55％以上を占めている。前回の調査で10位以内にあった長野県は減少し、岩手県が増加している。

宿泊形態は、ホテル利用が59・5％（前回55・1％）、旅館利用が32・4％（前回35・6％）と変化してきている。

船中泊の77％は九州地域の学校だった。

見学先は、大きな変化はなく、奈良公園が400校を超えている。200校を超えているのは、東京ディズニーリゾートと清水寺、法隆寺の3カ所だった。100校を超えているのは金閣寺、国会議事堂、二条城、ユニバーサルスタジオジャパンなど。

以上のように全国的に著名な寺社や文化財、娯楽施設などが中心となっている。平和学習としての沖縄県、長崎県、広島県は定着している。全体として、例年通りの傾向にある。

体験学習の費用は全体でやや上がったが、1千～2千円の範囲内の活動が多い。

新型インフルエンザの流行で実施時期が変更されたため、農業体験の内容が変わってしまった学校が一部に見られた。

旅行先 近畿と関東が主流
班別自主行動が80％を割る

⑦班別自主行動

班別自主行動の場所としては、京都市内と東京都内が圧倒的に多くを占め、全体の70％となっている。半数近くの学校が携帯電話（ナビつき、一般）を利用して、生徒の安全確保に努めている。（内訳は別表「班別自主行動中の連絡方法」を参照）

◇　◇　◇

全体としては、新型インフルエンザの流行により時期が延期されるなどの影響は受けたが、修学旅行の実施形態や行き先などについては、基本的に例年通りであったといえよう。

危機管理体制のいっそうの整備が必要ではあるが、教育活動としての修学旅行についての否定的な意見などは、新型インフルエンザの流行にもかかわらずほとんど見られなかったことは注目される。それだけに、今後いっそう修学旅行の充実を図ることが期待されていると言えよう。

◇　◇　◇

以上のまとめの中から、各論部分や言及されていない部分をピックアップしてみよう。

◆実施状況

全体では96・2％の学校が修学旅行を実施し、このうち海外修学旅行は全体の1・8％の比率だった。公立での海外実施率は0・6％、私立は11・7％。公立より私立の実施率が高いのは、教育委員会による修学旅行実施基準が適用外、学校の裁量に任されているなど、学校のミッションとして大きな意味を持たされていることによる。

◆小遣い

国立の結果は、前回も今回もまったく同じだった。一方、制限なしと回答した公立は前回の1・1％に対し今回は10・8％、私立は前回の6・2％が今回は22・5％など、制限なしと回答した学校が大幅に増加した。

このことから推測されるのは、学校の決まりも含めて、生徒の自己責任に任せようとする動き、あるいは制限しても守られない、指導がしずらいなどの理由もある。

◆体験学習

体験学習実施率は、2000（平成12）年の37・8％から02年に一気に50・8％に上昇し、その後も年々着実に実施率を上げてきた。しかし、ここにきて初めて59・2％と60％を下回ったことは、注視すべきことと言えよう。

理由は、新型インフルエンザによる修学旅行の時期や行き先の変更、それに伴う体験学習の中止などが考えられるが、そのほか体験費用が内容によっては高額となることや、商業主義にはしる傾向が強くなりつつあることから、実施率が下がっているという学校側の意見もみられる。

◆班別行動

班別自主行動の実施率は76・4％。推移をみると、全体実施率で1998（平成10）年実施分が89・0％、00年88・4％、02年90・3％、04年83・4％（04年までは隔年調査）、05年81・9％、06年92・1％、07年85・2％、08年87・3％。06年を最高に常に高い数値を維持していた実施率が、今回初めて80％を下回ったことは注視すべきことと言えよう。

実施率が下がったのは、前回と比べると私立が約18ポイント、公立が約10ポイントで、その理由については新型インフルエンザの影響によるものなのか、そのほかの理由か判然としない。

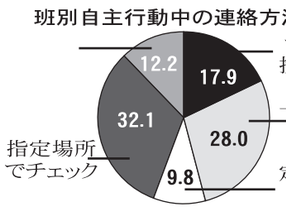
実施場所は、京都市内と東京都内が圧倒的に多く、全体の70％弱を占めている（別表「班別自主行動場所ベスト20」参照）。ただし、行動場所の順位を細かく見ると第3位の長崎市内は前回第5位、第4位の函館市内は前回第7位、同じく横浜市内は前回第9位で、とくに第6位の札幌市内は前回第14位から順位を上げている。

逆に第7位の小樽市内は前回第3位、第10位の沖縄本島内は前回第4位から順位を下げた。なお、今回は奈良公園内の班別行動については調査対象に含めていない。

費用内訳(生徒1人あたり)　(円)

項目＼設置者		国立	公立	私立	全体
総費用		79,281	59,543	86,169	62,219
内訳	交通費	36,577	25,508	36,892	26,610
	宿泊費	26,730	20,111	27,236	20,793
	体験学習費	6,615	4,460	5,638	4,589
	その他	11,875	10,306	12,948	10,518
1泊あたり宿泊費		9,788	9,353	9,741	9,392

班別自主行動中の連絡方法(%)



班別自主行動場所ベスト20

順位	班別自主行動場所	件数	構成比％	前回順位
1	京都市内	407	45.5	1
2	東京都内(職場訪問含む)	212	23.6	2
3	長崎市内	49	5.5	5
4	函館市内	21	2.4	7
	横浜市内	21	2.4	9
6	札幌市内	19	2.1	14
7	小樽市内	15	1.7	3
	盛岡市内	15	1.7	10
9	奈良市内	14	1.6	10
10	鎌倉市内	9	1.0	16
	神戸市内	9	1.0	12
	沖縄本島内	9	1.0	4
13	会津若松市内	8	0.9	20
	鹿児島市内	8	0.9	8
15	仙台市内	6	0.7	17
	大阪市内	6	0.7	20
	広島市内	6	0.7	20
	那覇市内	6	0.7	—
19	高山市内	5	0.6	—
20	伊江島（沖縄県）	4	0.4	20
その他		44	4.9	
計		893	100.0	

今、最も注目される教育旅行先～松山～

瀬戸内海を面でコース提案

愛媛県松山市は、今、最も注目される教育旅行先であり、「本物の体験」「将来に生きる体験」をテーマとして、教育旅行を通じて「感動」「教訓」、そして、「最高の思い出」を与えられる独自のメニュー作りを進めている。

日本最古の湯・道後温泉や日本最後の完全な城郭建築の天守を有する松山城、近年ではスペシャルドラマ「坂の上の雲」の主人公を輩出したまちとして知られる松山市だが、「教育」という視点から改めて地域資源を洗い出し、磨きをかけながら徹底した差別化を図っている。

道後温泉本館前で記念撮影

松山市の誘致戦略の特徴は、松山のみを売り込まないこと。瀬戸内海エリアを面で捉え、教育旅行の定番である広島や京都、大阪、神戸など関西を結ぶルートの新たな立ち寄り所として「松山」をアピールする。

仮に広島から関西への往復ではなく、広島から松山へ渡り、瀬戸大橋やしまなみ海道、神戸淡路鳴門道のいずれかを通って関西に入ることも十分可能だからだ。

最近では、先生方の要望である民泊体験を行った次の候補地として、松山を訪れる学校が増えてきている。例えば、山口県東南部の周防大島でマリン体験や漁業体験、民泊体験を行い、チャーター船で松山へ。あるいは、

世界で唯一、橋上サイクリング

磨き抜かれた体験メニュー

松山市は「教育」の視点から改めて地域資源を洗い出し、磨きをかけながら徹底した差別化を図っており、学校の教育課題や生徒のニーズに応じて、魅力的な体験メニューを用意している。

明治体感！松山はいく～コース～松山城・句会ライブ青春編

これまで、学校との共同開発としては「近代俳句の父」と称される正岡子規が生まれた松山で「俳句吟行体験」や地元ガイドと松山城を歩く「松山はいく～史跡松山城特別学習編～」を実施している。

今年度は既存メニューを土台に、より磨きをかけた「体験メニュー」を学校と共同開発した。「坂の上の雲」の主人公たちが高い志を抱いて駆け上った「松山城」で、地元専属ガイドと歩く吟行体験を行いながら、途中、隠門続櫓や野原櫓など普段は公開されていない国の重要文化財に触れ、登城太鼓や一ノ門開門の体験を行った後、二之丸史跡庭園の特設会場での句会ライブだ。

この他、「本場で「第一次産業」の尊さを学ぶ～みかんの島・中島で～」など、多様な体験メニューを用意している。

人力車に乗って明治を体感

松山城で吟行体験

動物からのメッセージ～動物とのふれあいを通した環境学習

西日本最大規模を誇る行動展示型の「とべ動物園」は、日本で初めて人工哺育に成功したシロクマ・ピース、アフリカゾウ、スローロリスが飼育されている。ここでは、北極やアフリカなどで起きている地球温暖化や森林伐採、密輸問題などの環境学習がメニュー。

実際に哺育に携わり、常に動物達のことを考えているプロフェッショナルの飼育員が、映像や人工哺育で使用した道具を使いながら生徒達に真剣に語る。その生き方を学ぶことも大切な勉強。また、飼育体験や餌やり、園自身が取り組んでいる汚水処理や堆肥処理などリサイクルへの取り組みも見学できる人気の高いメニューとなっている。

絶景！しまなみ海道～日本のエーゲ海に浮かぶ島々

本州と四国を結ぶ3本目の橋「しまなみ海道」の定番メニューは、自転車で渡れる「橋上サイクリング」で、瀬戸内海の島々を眺めながらのサイクリングは爽快そのもの。昼食で海鮮バーベキュー、観潮船での急流体験などもできる。

いにしえの宝が集まる島―大三島には、大山祇神社がある。宝物館には国宝や重要文化財の指定を受けた鎧や兜、刀剣類の全国の約8割が収蔵されている。境内中央には樹齢約2600年の大楠が神木として鎮座する。

「和文化」と「和の作法」を学ぶ～道後の夜の研修メニュー

宿泊先は道後温泉。松山市は、主要施設が中心部にコンパクトに納まっており、道後温泉も車で10分以内の距離にある。

バスで神戸淡路鳴門自動車道を渡り、徳島県西部の「そらの郷」で山村暮らしや民泊体験を行った後に、松山へ移動。ほかにも、広島で平和学習「橋上サイクリング」や観潮船による急流体験をした後、松山入りなどさまざまだ。

本館は、ミシュランガイドブックでの三つ星最高評価や映画「千と千尋の神隠し」の油屋のモデルとしても有名。食事は一般旅行者と同等レベルの本格会席で、もてなしは折り紙つき。

こうした道後の強みを生かし、ホテルや道後商店街と開発したのが、プチ研修とぶらり散策だ。

夕食前後の時間を利用して、会席料理やお座敷のマナー、食育など約15分で構成。時間の有効活用としても好評。ぶらり散策は、明治の雰囲気漂う道後温泉本館を中心に、特別料金で乗車できる人力車や本館前での集合写真、また、正岡子規に代表する「俳都・松山」にちなんで、散策中に俳句をつくり、特設のポストに投句すると、後日、最優秀句にみかんジュースが贈られるといった特別イベントも行っている。

なお、心配される安全確保は、市職員やホテルスタッフが責任を持って対応している。

西日本最大の動物園で環境学習や飼育体験を実施。プロの飼育員から生態を学ぶ（とべ動物園）

歓迎

松山が提供するメニューは、他地域との差別化を図り、教育的視点から地域の資源を磨き上げたものであり、多様なメニューから学校の教育課題や生徒のニーズに応じて選択できる。

また、松山での特色のある体験学習の1つが学校と共同してメニューを企画、開発し、実施すること。今年度も、「松山城」において、地元専属ガイドと歩く吟行体験を行いながら、普段公開されていない国の重要文化財に触れた後、句会ライブを実施するメニューを共同開発した。学校からの細かな要望に添ったていねいな作りこみが好評を得ている。

そのほか瀬戸内海に浮かぶ〝みかんの島〟「中島」での第一次産業体験や環境学習をはじめ、道後温泉における日本文化体験など、松山ならではのメニューを提供している。

数年前は修学旅行生を見ることのなかった松山に、今では50校を超える修学旅行生にお越しいただくようになった。

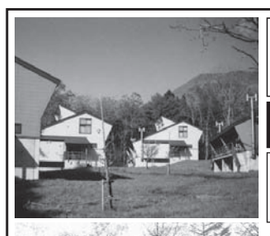
ある学校の生徒アンケートでは、満足度95％という驚異的な数字をはじき出し、修学旅行を通して学校間交流が始まったり、体験メニューが授業に採択された例もある。

民泊体験や平和学習との組み合わせ、チャーター船やしまなみ海道などを活用して瀬戸内海を周遊するコースは、もはや修学旅行の定番。私たちは、子供たちにとって一生に一度の大切な修学旅行を最高のおもてなしで対応いたします。

大切な修学旅行を最高のおもてなしで

松山市観光産業振興課 主幹　**織田 祐吾氏**

— 協力 —
松山市産業経済部観光産業振興課
〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目7-2
tel：089-948-6557 fax：089-934-1764
E-mail:kanko@city.matsuyama.ehime.jp
http://www.oidenka-matsuyama.com/



長野県黒姫高原
森の中の自然体験型宿泊施設
ラボランドくろひめ

3万坪の森の中に、25名様が宿泊できるロッジが24室と、5名様用ロッジが2部屋、300名様まで利用可能な集会室、純和風建築のゲストハウス、1000名様まで対応可能な厨房完備、ミーティングにも便利な本部棟などが点在し、ご希望に合わせた利用が可能です。

四季折々の自然を満喫。 緑の豊かな季節は、さまざまな花が咲き競います。ハイキングや登山、トレッキング、野尻湖での水遊び、野外炊飯やバーベキュー、そして体験学習プログラムまで、黒姫高原の自然を満喫して下さい。

冬は一面の雪に覆われ、スキー、スノーシューハイク、ソリ遊びや雪像作りなど、さまざまな雪遊びを楽しめます。また、雪国ならではの体験学習もお楽しみ下さい。

体験学習プログラムが充実しています。地元の皆さんと共同で、野外活動や生活体験、伝承技術まで、さまざまなプログラムを用意しています。

学校・旅行代理店ご担当さまを対象に無料試泊キャンペーンを実施中！

お問い合せは…
東京事務所　〒160-0023　新宿区西新宿 6-24-1　西新宿三井ビル 13F
TEL.03-5324-3424 FAX.03-5324-3425
ラボランド黒姫　〒389-1303　長野県上水内郡信濃町野尻 1848
TEL.026-255-5723 FAX.026-255-5724

自然体験プログラム
黒姫の自然の中で、地元インストラクターの協力を得て、さまざまな自然体験をします。

□ 登山・ハイキング　…▶「登姫の会」「GOZAN 自然学校」
□ 野尻湖でのカヌー、ウェイクボード　…▶「ウクディパドリングスクール」
□ 野尻湖探検隊（水質調査、水生生物とナウマンゾウ）　…▶「NPO 信州地球環境アカデミー」
□ マウンテンバイクスクール　…▶「黒姫マウンテンバイク協会」
□ ツリークライミング（木登り）　…▶「黒姫ツリークライミングスクール」
□ ハイロープ・ローエレメント＝チームチャレンジ　…▶「ラボランドくろひめ」
□ ネイチャーゲーム　□ テニス・野球・サッカー・陸上競技・体育館スポーツ各種
□ 自然観察　□ フィッシング（鱒、ブラックバス、わかさぎなど）　□ キャンピング
□ アウトドアクッキング
・飯盒炊飯・カレーづくりや BBQ・手作りパンやジャム作り・おやき作り

地域文化体験プログラム
地元の方々と触れ合いながら、地域の文化や郷土料理などを、楽しみながら学べます。
□ 小林一茶記念館と一茶句碑巡り　□ 黒姫童話館
□ 野尻湖ナウマンゾウ博物館　□ そば打ち体験　□ わら細工体験
□ ネイチャークラフト（ウッド、レザー、ストーン、草木染めなど）

冬季プログラム
冬の野外活動は、積雪量の多い地方ならではの雪遊びが楽しめます。

□ スキー、スノーボード
□ クロスカントリースキー、ネイチャースキー
□ スノーシューハイキング
□ 自然観察
□ ソリ遊び、雪像作り、イグルー作り、雪遊び、雪上運動会